

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドウィッシュかもだ			
○保護者評価実施期間	令和8年5月30日		～	令和8年6月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26名	(回答者数)	22名
○従業者評価実施期間	令和8年6月1日		～	令和8年6月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数)	9名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年6月29日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども一人ひとりの特性やニーズを丁寧に把握し、本人や保護者の思いを反映した個別支援計画を作成・実施していること。	・アセスメントや日々の関わりを通して本人の思いや目標を確認し、個別支援計画へ反映している。 ・面談やサービス担当者会議では、保護者や本人の要望を丁寧に聞き取り、支援内容を共有している。	・今後も本人と保護者との対話を大切にしながら、ニーズに応じた支援内容の充実を図る。 ・職員間で支援の振り返りや情報共有を継続し、より質の高い支援につなげていく。
2	保護者との情報共有や相談体制を整え、安心して相談できる関係づくりができています。	・送迎時やLINE、HUG、電話などを活用し、その日の様子や成長、困りごとをタイムリーに共有している。 ・必要に応じて個別相談や面談を行い、家庭での困りごとや子育てに関する相談にも対応している。	・定期面談の実施時期が分かりやすくなるよう案内方法を工夫するとともに、必要時には随時相談できる体制を継続していく。 ・保護者が安心して相談できるよう、日頃から信頼関係づくりに努めていく。
3	LINEやHUG、Instagram等を活用し、活動内容や事業所の取組を積極的に情報発信していること。	・LINE通信やHUGで活動の様子や連絡事項を発信している。 ・行事や特別活動については写真等も活用し、事業所での様子が伝わりやすいよう工夫している。	・今後も保護者が事業所での様子をより身近に感じられるよう、分かりやすくタイムリーな情報発信に努める。 ・支援内容やガイドラインとのつながりについても、より分かりやすく伝えられるよう工夫していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや地域の子どもの交流機会が限られていること。	・子ども本人の気持ちに配慮しながら、公園活動や職場見学、地域イベント等を通して地域との関わりを持てる機会を設けている。 ・地域交流が負担にならないよう、一人ひとりの特性や希望を尊重して実施している。	・子どもたちが安心して参加できる交流の形を検討しながら、地域とのつながりを持つ機会を少しずつ増やしていく。
2	保護者同士が交流できる機会や家族支援のさらなる充実。	・パパママ会や懇談会を実施し、保護者同士が情報交換できる機会を設けている。 ・家族参加型イベントの開催を通して、家庭同士の交流につながるよう取り組んでいる。	・年間計画をもとに早めの案内を行い、参加しやすい日程調整に努める。 ・保護者のニーズを把握しながら、家族支援や交流の機会を継続的に充実させていく。
3	各種マニュアルや避難訓練等の取組について、保護者への周知をより分かりやすく行うこと。	・契約時の説明に加え、LINE通信やHUG等を活用して訓練実施状況や安全対策を発信している。 ・毎月の避難訓練実施後には内容を保護者へ共有している。	・マニュアルの概要や訓練内容を定期的に分かりやすく発信し、保護者が安心して利用できるよう周知方法を工夫していく。 ・安全対策や緊急時対応についても、理解を深めていただけるよう継続して情報提供を行っていく。